

小田原の宝を世界に発信！ 「おだわらデジタルミュージアム」

おだわらデジタルミュージアムは、小田原市が収蔵している資料を閲覧・検索することができるポータルサイトです。考古・歴史・美術・民俗・文学・自然などの資料をデジタル情報として後世まで確実に継承するとともに、「いつでも」、「誰でも」、「簡単に」アクセス可能で、学校教育・市民の生涯学習活動、及び観光振興としても活用できることを目的としています。

おだわらデジタルミュージアムを管理・運営している小田原市郷土文化館は、同市の博物館として中核をなす施設ですが、築80年を迎えようとしており、躯体の老朽化に加え、国指定史跡内に立地しているため、現在地での建て直しが難しいという問題も抱えています。

このような問題を解決するために、同市では平成28年度に「小田原市博物館基本構想」を策定し、新しい博物館が目指す7つの方向性を打ち立て、同市の現状に即した博物館整備を進めています。その一つである「情報を集約し発信する博物館」では、収蔵されている博物館資料に限らず、地域資源の情報を広く収集し、一元管理することを目指しています。情報のデジタル化を推進し、利用しやすい環境を整え、様々な場面での活用が図れるよう情報を発信することが示されています。そのような中で、国が推し進めているデジタル田園都市国家構想の交付金を活用する機会に恵まれ、おだわらデジタルミュージアムの構築に至りました。

おだわらデジタルミュージアムは、大きく「ミュージアム」と「アーカイブ」にコンテンツが分かれています。「ミュージアム」は、同市の学芸員が厳選した収蔵資料をテーマや撮影手法別に見せる「厳選！小田原市の収蔵資料」、先史から現代までの歴史や貴重な映像・同市ゆかりの人物などを調べることができる「小田原のいまむかし」、市内を写したモノ

クロ写真をAI技術によってカラー化した「カラーでよみがえる小田原」から成り立っています。一方の「アーカイブ」では、同市で収蔵している考古・歴史・民俗・美術・写真・文学・自然などの資料を検索・閲覧することができます。分野に限らず横断検索も可能とし、検索の自由度を高めています。さらにサイトの情報を更新した際には、おだわらデジタルミュージアム内での情報発信だけでなく、SNSとも連携を行うことで、広く周知することに努めています。

令和5年3月31日にオープンを迎えたおだわらデジタルミュージアムは、現在までに約11万アクセス（令和5年10月31日時点）があり、当初1年間の目標であった閲覧者数3万人をオープン1ヵ月で達成しました。サイトを閲覧した方から資料や内容に関する問い合わせもあり、好評を得ています。

今後は、国会図書館が運営しているジャパンサーチや国立科学博物館が運営するサイエンスミュージアムネットなどの外部データベースとの連携や都市OS（都市のインフラを支えるソフトウェア）を介した観光アプリとの連携も予定しています。この取組が国の進めているスマートシティ構想における文化財保存活用先の先進的な事例となり、同市が進めている「世界が憧れる町“小田原”」の実現にむけて大きな一歩になることが期待されています。



デジタルデバイスでアクセス可能な「おだわらデジタルミュージアム」